

キャラクター名
黒堂 正誤 (くろどう しょうご)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ パロール	ワークス	ウォーリアー	カヴァー	不良学生
オプション	ノイマン	年齢	17	性別	男
覚醒	渴望	衝動	加虐	初期侵食率	38 %
出自	(06) 母親不在	経験	(36) ニュース	邂逅	(98) 殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	3	1	0	1		5	行動値	4
感覚	1		0			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	2		0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	5r+6		13(14)		
	白兵	5r+6				
【マイナー】		0				
「逃げん」		0			[23] 素手データ変更+飛行状態で戦闘移動	

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服		0			「ラギット」により装甲点-1

所持品	
エンブレム「スワンスイマーズ」	
エンブレム「ブラックスワズ最高幹部」	
エンブレム「ダークフェザー」	
デモンズシード	
思い出の一品	
カスタマイズ:ブランケット	
コネ:手配師	
エリートチーム	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
対抗種(カウンターレネゲイト)	P	N		
ジャーナリスト	P 有為	N 無関心		
“ハイトルーラー” 渡瀬武範	P 傾倒	N 偏愛		
“ルピナス”	P 好奇心	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
武芸の達人	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	選択:<白兵> 達成値+[Lv*3]							
斥力跳躍	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	飛行状態で戦闘移動 距離+[Lv*2]m							
破壊の爪	6	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	素手データ変更							
C:パロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-Lv(下限値7)							
漆黒の拳	1	3	メジャー	武器	単体	対決	-	
効果:	攻撃力+Lv 装甲無視							
瞬速の刃	2	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	判定ダイス+[Lv+1]							
黒の咆哮	2	4	メジャー	-	-	対決	80↑	
効果:	攻撃力+[Lv*4] 判定ダイス-2							
謁見の魔	1		-	至近	範囲(選択)			
効果:	周囲に重力負荷を掛ける							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【キャラクター詳細】
元・ブラックスワズ最高幹部。スワズイマーズを率いていた。オーヴァードに対しての常軌を逸した戦闘能力と卓越した戦闘技術によって幹部の座まで上り詰めた超実力派。元々は地下闘技場の人気選手で、学校をサボっては喧嘩して小銭を稼いでいた。ステゴロでの格闘を極めており、相手が銃であろうと刃物であろうとブチのめしていたことから“パンチマニア(拳闘狂い)”の異名を付けられた。自らの到達点を探すために闇雲に己の拳を振るい続けていたある日、春日恭二にブラックスワズに勧誘されて加入。そこで初めて出会った渡瀬武範に対し、自分でもよく理解のできない暗い感情を覚える。それは確かな殺意だが、しかし言いようのない「ナニカ」であった。

周囲のことに対してまるで興味がなかったためスルーしていたが、ある日気づけばブラックスワズは白協会の傭兵部隊になっていた。「はは！なんだこりゃあ？俺たちはいつからこんな風になった？」
それまで自分の居場所だったところが、訳のわからないものに汚されていくような気がした。
それまで自分の縄張りだったところに、突然おかしなものが放り込まれたような気がした。
「——くっだらねエ、シケたわ」
だから抜けた。ここではもう息ができないと悟った。

白協会に対しては「ダサイもの」だと思ってる。それ以上でもそれ以下でもない。個人戦闘特化のノイマン。戦闘以外はあまり得意ではない。理論より感覚で動く。『魔眼』はスーパーボール程度の大きさの球体。

【「ブラックスワズ最高幹部」について】
抜ける時についてきた子分たちと幹部としての経験則。子分たちはエキストラ扱い。各々形は様々だが黒堂を慕っており、素手での戦闘を至上とする格闘集団。